2013年10月1日発行（隔月発行）

図書館報 ぷらっつ★篠崎

032号

特集
「 Present for You 」
～この本を、あなたに。～
図書館スタッフ全員参加の企画です。オススメ本も18冊と、もりだくさん！　本の贈り物のご参考に……。

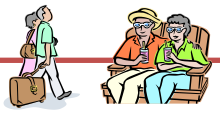
P1 **江戸川まいにんぐ**
「区の木・区の花」決定総選挙

P4 **スタッフのセレクション！**
「竜潭譚」 泉　鏡花著

今年の特別企画は……？

読書週間の季節がやってまいりました！　今年の標語は「本と旅する　本を旅する」。期間は、10月27日から11月9日までとなっています。これを機会に、旅に関する本などを読んでみてはいかがでしょうか。
篠崎図書館では、読書週間にちなんだオススメの本を、ご用意いたします。

特別企画「旅する図書館」
10月27日（日）～11月15日（金）



ミニ特集のコーナーで特別企画を行います。そこに様々な国のカードがありますので、読んでみたい国のカードをお持ち頂ければ、図書館スタッフが選んだ本をお渡しいたします。どんな本かは、手にしてからのお楽しみ！　ぜひ、お立ち寄りください。

江戸川まいにんぐ 発掘　第３２回
「区の木・区の花」決定総選挙

江戸川区内のイベントスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

前号のこのコーナーの主役は西葛西駅前のクスノキに集まるムクドリでしたが、今回はクスノキの方に注目してみます。クスノキは江戸川区の「区の木」として街路や公園など区内各所に植えられており、くすのきクラブという団体名や、くすのきカルチャーセンターという施設名は「区の木」にちなんで名付けられたものです。それでは、なぜクスノキが「区の木」になったのかはご存じですか？　なんと、それには区民の人気投票の結果が反映されていたのです！

昭和53年（1978）、区は「区の木・区の花」を人気投票によって決めることとし、区民へ投票を募りました。木の候補は、イチョウ・ウメ・クスノキ・サクラ・モクセイ・ヤナギ他計13種。結果は、投票総数6,423票のうち、モクセイ1,037票、クスノキ1,009票、イチョウ957票、サクラ556票などの順でした。各種団体代表者で構成する選定委員会は、得票にあまり差のない上位3点を対象に検討した結果、街路樹などに使える広葉常緑樹のクスノキを選び、モクセイとイチョウは「準区の木」となりました。ちなみに、花はアジサイやボタンなど計11種の候補の中で、ツツジ(サツキを含む)が断トツ1位の1,886票を獲得し、満場一致で「区の花」に決定したそうです。

今年4月に区は「江戸川区みどりの基本計画」を新たに策定し、昭和45年(1970)より本格的に始めた緑化運動は、進化し多様な広がりを見せています。区民によって選ばれた「区の木・区の花」はその運動の盛り上がりのシンボルとなっているのです。

参考資料
「江戸川区政50年史」江戸川区区政情報室区史編纂室編　　K1-21
「江戸川区みどりの基本計画」 江戸川区土木部計画調整課編　K1-51-13

ライブラシネマ篠崎

「ペーパー・ムーン」
（1973年、アメリカ）
監督：ピーター・ホグダノヴィッチ
出演：ライアン・オニール
テイタム・オニール
マデリン・カーン ほか

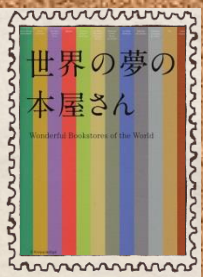
１０月１２日（土）
14時　開演　（13時30分　開場）
場所：篠崎文化プラザ　講義室
定員：70名(当日受付、先着順)
どなたでも参加できます。
入場料：無料

大恐慌時代のアメリカ。聖書の詐欺販売で暮らしているモーゼは、交通事故で亡くなった馴染みの酒場女の葬儀に立ち会う。孤児になった少女アディを叔母の家まで送り届けるはめになり、事故の関係者から示談金をせしめると、アディをやっかい払いしようとするが……。

普通の本屋では物足りなくなった人へ

家の近くの、あるいは駅前の本屋さん。いつも行く本屋さんに特に不満を感じてはいないけれど、たまには何か別の「本の空間」を見てみたい。本そのものだけでなく、本が置かれた空間も愛している人におすすめです。

「世界の夢の本屋さん」
エクスナレッジ
W024セ
篠崎ほか所蔵



世界中の美しい本屋さんを紹介した本。映画の世界に迷い込んだようなクラシカルな本屋、大学図書館のような威厳のある本屋、奇抜な内装の本屋などが美しい写真と共に紹介されています。見れば行ってみたくなる、そんな本です。

スカッとしたい人へ

世の中、辛いことうまくいかないことばかり。でも、ほんの少しの頑張りと勇気があれば、きっとささやかな幸せが訪れるはず。そんな優しい登場人物たちの起こす奇跡の物語。ラストで笑って泣いてスカッとして下さい。

「平成猿蟹合戦図」
吉田　修一著
朝日新聞出版
Fヨ
篠崎ほか所蔵

新宿で起きた轢き逃げ事件がきっかけとなり邂逅した、生まれも境遇も違う8人の男女。小さな奇跡を起こすため、この国の未来を変える戦いに挑む！　吉田修一が贈る、暗い現代に一筋の光が射すような小説です。

ちょっと気持ちが落ち込んでいる人へ

何かに困っている、迷っている人を励ますつもりが逆に励まされてしまう、そんな不思議な一冊。重たいテーマを扱っていながらも、さらっと読めてしまうのがこの本の魅力のひとつ。読むと少しだけ元気に、そして前向きな気持ちになれる本です。

「困ってるひと」
大野　更紗著
ポプラ文庫
J916オ
篠崎所蔵

ビルマの難民問題の研究をしていた大学院生が、ある日突然原因不明の病気を発症、自らが難病患者という名の難民になってしまった！　過酷な闘病生活の模様をユーモアに描いたエッセイ集。

企画で行きづまった人へ

学園祭の催し物や、新商品を考えたり、地域でイベントを行うときなど、生活をしていると企画を立てなければいけないときがあります。困ったとき、多くの企画を立てている秋元氏がどのように考えているか知ることで、ネタ探しのヒントになると思います。

「秋元康の仕事学」
NHK「仕事学のすすめ」制作班編
NHK出版
336.1ア
篠崎ほか所蔵

NHK「仕事学のすすめ」2010年5月の放送とテキストを元に書籍化したものです。秋元氏曰く「企画を考えるということは、じつは誰にとっても身近なものなのです」。また、勝間和代氏との対談も収められており、盛りだくさんです。

スタッフのセレクション！ 第32回

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「竜潭譚（りゅうたんたん）」　『鏡花幻想譚　1　竜潭譚の巻』所収
泉　鏡花著　河出書房新社　913.6イ1　中央所蔵

泉鏡花を知ったのは、中学生の時に読んだ少女漫画のヒロインの名前が“鏡花”で、「明治時代の作家の名前」という説明があり、「すごく綺麗な名前だな」と興味をもったのがきっかけでした。最初に読んだのは「高野聖」あたりだったと思います。今までに読んだことのない文語体が難しくて、言葉の意味が分からずあらすじもよく掴めない……。しかし、こんなにも美しい文章と日本語に触れるのは初めてでした。頭で内容を理解できていないのですが、目が次へ次へと文章を求めていく衝動は、他の読書とは違い、詩や音楽を鑑賞する感覚に近いと思います。

今回は、単純に私のお気に入りであるという理由で「竜潭譚」をご紹介することにしました。あらすじや内容を語るには自信が無いので『鏡花幻想譚』の解説から引用すると、“この世の者ならぬ女に心奪われそうになった少年の話”、“幻想と現実のきわどいせめぎあいの中で揺れる思春期の少年の心がみごとに描き出された幻想譚”とあります。

特に私が好きなのは、少年がつつじの丘をひとり歩く冒頭の場面です。太陽が真上にあり影も出ない白昼。見えるのは一点の雲もない空の青と、丘を埋めつくすように咲き乱れるつつじの紅ばかり。この極彩色の描写にうっとりとして、今までに何度もこの部分だけでも繰り返し頁をめくっています。まさにお気に入りの曲を繰り返し再生するかのような衝動でもって。

鏡花の作品にはいわゆる幻想もの以外の小説や戯曲もたくさんあります。この読書の秋に、あなたも魅惑の鏡花ワールドに足を踏み入れてみませんか。

編集後記

旅行中に読もうと本を持って行くものの、読んだ試しがありません。（風雲ふわふわ丸）／行ったことのない場所に行くのが好きです。いつか47都道府県を制覇したいです。（かき氷職人）／旅はダイスキです。けど、はしゃぎすぎると、体Damageきっとありマス。（M.弱尊）／本を読んで色々なところを旅するのは大好きです。インドアな方にオススメです。（てんてん）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/